

令和8年度第1回中央区区政会議 会議録

1. 日時 令和8年6月22日（月）午後5時00分～午後7時10分

2. 場所 中央区役所 7階703・704会議室

3. 出席者

（区政会議委員）

麻野委員、浅宮委員、金堀委員、兼岡委員、葛本委員、小森委員、城委員、
菅委員、鳥居委員、中飯委員、林委員、日ノ下委員、古道委員、部奈委員、
眞鍋（明）委員、眞鍋（知）委員、水上委員、光武委員

（ゲスト）

フィリップ シェンハオ トン氏、洪 玉娟氏、林 俊銘氏、大島 勝久氏、
田中 浩昭氏

（市会議員）

野上議員、塩中議員、鈴木議員

（中央区役所）

松田中央区長、上野山副区長、平田総務課長、釜野魅力推進課長、
白川区政企画担当課長、上野市民協働課長、覺野市民活動支援・教育担当課長、
塩谷福祉課長、井上魅力推進課長代理

4. 会議次第

1 開会

2 区長あいさつ

3 議題

（1）多文化共生に向けた相互理解

（2）区政運営

【白川区政企画担当課長】

定刻となりましたので、ただ今より令和8年度第1回中央区区政会議を開始いたします。

本日は、大変お忙しい中、ご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

私、本日の進行を務めさせていただきます、区政企画担当課長の白川です。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、この区政会議は、公開の会議となっております、傍聴や取材を許可しておりますのでご理解の程よろしくお願い申し上げます。また、会議録作成用の録音や動画配信用の撮影などについて、ご了承いただきますようお願い申し上げます。

はじめに、開催にあたり、区長の松田よりご挨拶申し上げます。

区長、よろしくお願いします。

【松田中央区長】

皆様こんにちは、区長の松田です。

本日は、令和8年度の1回目ということで。前は3月に開催させていただきました、覚えていらっしゃるでしょうか。「地域のつながりづくり」ということで、ご議論いただきました。大変私共も参考になるお話をたくさんいただいて、区政に活かしていきたいなと改めて感じているところでございます。

今日は、「多文化共生に向けた相互理解」ということで、4組のゲストの皆様をお迎えしております、この4組の皆様は、私も昨年度から着任させていただいて、いろいろな場面でお会いした方々ばかりでございます、やはり私だけがお話をお伺いしていたら勿体ないので、是非皆様にもお話を一緒に聞いていただいて、相互理解の一助になればなと思ひまして、お忙しいところを、無理やり頼み込んで来ていただいた次第でございます。非常に今日は楽しみにしております。

私、毎回申し上げますけれども、この区政会議はですね、委員の皆様が話しやすい場づくりというのを努めております。早速、今のこのレイアウトが、私から後ろからじろじろ見られているようだと思ひからご指摘ございましたので、そうならないように、速やかに移動したいなと思ひんですけども。是非、皆様、多くのご意見を出していただければなと思ひます。

そして、皆様からいただいたご意見を、できる限り、小さなことでも区政に反映していきたいなというふうに思っておりますので、区役所のメンバーも、是非、そういった観点で、勉強させてもらおうということで、お願いいたします。

簡単ではございますけれども、ご挨拶とさせていただきます。

本日もよろしくお願いいたします。

【白川区政企画担当課長】

ありがとうございました。

では、本日の会議資料の確認と会議の流れの説明をさせていただきます。

会議資料は、事前にお送りしておりました、「次第」、「中央区区政会議委員名簿」、資料1「中央区の現状」、資料2、資料3の「運営方針」に加えまして、本日、資料4「令和7年度第3回中央区区政会議における委員からのご意見及び区の考え方」というものを追加しております。

また、お手元に参加として「本日の区政会議の流れ」、「配席図」をお配りしております。万が一、資料がない、落丁等がございましたら事務局までお申し出ください。

追加させていただいた資料4については、第3回区政会議でいただいた多くの意見についての区役所の考え方をお示ししたものでございます。多くのご意見、誠にありがとうございました。

また、第2回区政会議で、情報発信についてご意見を頂戴したんですけれども、ご意見を反映する形で、5月号から広報紙「広報ちゅうおう」の全面リニューアルを行っております。改めて、現物でご覧いただけるよう出入口にご用意しておりますので、もし、お持ちでない方は是非お持ち帰りください。

では、本日の区政会議の流れをご説明します。「本日の区政会議の流れ」または正面のスライドをご覧ください。STEP1として開会後に、STEP2として本日のテーマに関連するゲスト4組によるスピーチをお願いしております。続いて、STEP3としまして、4グループに分かれて25分程度、意見交換を行っていただきます。その後、各グループで出た意見を発表・共有いただいた後、STEP4として参加者全員からお一人ずつコメントを頂戴したいというふうに考えております。

では、本日の出席者の皆様をご紹介します。お名前をお呼びした方は、その場でご起立願います。

Aテーブルより、鳥居委員、浅宮委員、中飯委員、城委員、古道委員

Bテーブルに移りまして、林委員、水上委員、金堀委員、小森委員

Cテーブルに移りまして、日ノ下委員、兼岡委員、部奈委員、光武委員

Dテーブルに移らせていただきまして、麻野委員、真鍋（知）委員、菅委員、眞鍋（明）委員

以上、委員の皆様でございました。

続きまして、より活発な議論となるようご助言をいただくために、中央区選出の市会議員の皆様にもご出席いただいておりますので、ご紹介いたします。

野上議員でございます。

塩中議員でございます。

ありがとうございました。4組のゲストの方については、後ほどご紹介いたします。

続いて、区役所職員をご紹介します。

改めまして、区長の松田でございます。副区長の上野山でございます。続きまして、課長級職員を数名、各テーブルに配置させていただいておりまして、Aグループ福祉課長の塩谷、Bグループ市民活動支援・教育担当課長の覺野、Cグループ市民協働課長の上野、Dグループ総務課長の平田、他の公務との関係で遅れておりますが、Dグループに魅力推進課長の釜野が追加で参加させていただきます。そして事務局の私白川と井上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に移ります。これより先の進行につきましては、日ノ下議長にお願いいたします。

日ノ下議長、よろしくお願いいたします。

【日ノ下議長】

それでは、議事に入らせていただきます。

まず、本日の区政会議につきましては、委員定数 20 名のうち、現時点における出席委員は 17 名です。条例に基づく定足数である 2 分の 1 以上を満たしておりますので、本会議は有効に成立しておりますことをご報告申し上げます。

昨年度に 3 回開催しております区政会議での意見は、区の実情につながり、非常に有意義であったと思います。本日も区政会議で出た意見を区政運営に活かされるよう議事を進捗してまいりますので、委員の皆様のご協力をお願いいたします。

それでは、議題（１）「多文化共生に向けた相互理解」について、議論に資するために事務局から「中央区の人口動向・住民構成等」の説明と、ゲストのご紹介をお願いいたします。

【白川区企画担当課長】

それでは、資料 1 をご覧ください。

お手元の資料もしくは前面のスライドをご覧くださいと思います。

まず、中央区の人口動向についてご説明いたします。中央区の人口増加数は左上のグラフのとおり市内で最も多く、人口増加率も左下のグラフのとおり浪速区に次いで市内 2 番目の高さとなっております。また、右上のグラフのとおり、合区以降、人口は 2.1 倍、世帯数は 3 倍に増加し急速に伸びているところでございます。

次に、資料裏面をご覧ください。

2 人口構成ですが、外国人人口は近年大幅に増加しておりまして、住民基本台帳ベースとなりますけれども、令和 8 年 3 月末時点で、令和 4 年 4 月比で日本人が 5.61%増に対し、外国人は 55.83%増となっており、外国人が日本人と比べて大幅に増加しております。右下のグラフが国籍別の人口で、1 位中国、2 位韓国及び朝鮮、3 位台湾、4 位ベトナム、5 位ネパールの順となっております。

今回の区政会議では、「多文化共生に向けた相互理解」のテーマに関して、地域の実情

や課題をより深く理解し、現場でご活躍されております4組のゲストの方をお迎えしておりますので、一括してご紹介いたします。

まず、お一人目は、中央小学校PTA副会長で元桃園幼稚園PTA会長のフィリップ シェンハオ トン様です。台湾系カナダ人のトン様は、大学ご卒業後、2007年に来阪され、それ以降、約20年大阪にて生活をされており、知的財産法律事務所にお勤めで、PTAなど地域に根ざした活動が続けられております。

お二組目ですが、南船場にあるホテル Just Sleep 大阪心斎橋 総支配人の洪 玉娟（ホン トビー）様、セールスマネージャーの林 俊銘（リン ライアン）様です。

Just Sleep 大阪心斎橋は、中央区南船場にある日本初の台湾発「Just Sleep ブランド」のホテルで、地域とのつながりを大切にする理念のもと、地域ならではのアメニティや飲食を取り入れ、地域に根ざした施設づくりを実施されています。

また、町会にも加入されており、地域活動にも積極的に参加されており、中央区防災パートナーにも登録いただいたところです。

3組目のご紹介です。日本語学校ファースト・スタディ（株式会社インフィニット グロース）総務部生活指導課 課長の大島 勝久様です。

日本語学校にて生活指導教員として留学生の学習・生活支援に携わる傍ら、細密字書道家「大島 菁岳（せいがく）」としても活動されておられます。書道師範として多くの留学生に日本文化を伝え、異文化交流と国際理解の促進にも貢献されています。

4組目、最後になりますが、Minami こども教室実行委員会 副実行委員長の田中 浩昭様です。

2013年に発足以来、外国にルーツを持つ子どもたちの学習支援と、居場所づくりに取り組むMinami こども教室実行委員会の副実行委員長を務めておられ、地域の子どもたちへの補充学習支援に加え、互いに支え合える関係づくりや、多文化共生の実現に向けた活動を推進されております。子どもと家庭に寄り添いながら、安心して学び成長できる地域づくりに尽力されております。

以上、ゲストの方のご紹介でした。事務局からの説明は以上です。

【日ノ下議長】

ありがとうございました。それでは、ゲストからお話を聞きたいと思います。

フィリップ シェンハオ トン様、よろしくお願いいたします。

【フィリップ シェンハオ トン氏】

皆さん、こんにちは。トンと申します。

簡単な自己紹介なんですけど、私のルーツは台湾です。よくどこから来ましたか、どの国の人ですかと聞かれるんですけど、ちょっとややこしいのは、実は、台湾生まれなんですけど、小学校の頃、親と一緒にカナダに行って、その後、中国の上海に移住して、そこ

でアメリカンスクールに通っていて、またカナダへ戻って、最終的にカナダで国籍を取ってから、大学を卒業してから社会人として日本に来ました。

なので、自分は台湾人として認識があるんですけど、逆に今、台湾に帰ったら、リバースカルチャーショックというか、台湾の人からすると「お兄さん、中国語が上手ですね、どこで勉強した」とよく聞かれます。

どの国に行っても自分は外国人という立場をたくさん経験しましたので、2007年に日本に来てもうすぐ20年になりますが、いまだに自分は外国人だなという自覚があります。

そういった状態なので、今日の多文化共生についての皆さんとの議論の場では、外国人としていろいろ意見を言わせていただきます。

元々、社会人になってから日本に来たので、その頃は日本語もまだできなくて。いまだに中途半端なんですけど、その後もいろんな場面でバレバレなんですけど、ちゃんと日本語を勉強したことがないんです。なので、敬語が正しく使えていなくても許してください。

本当にどうでもいい話なんですけど、このような顔なので、ぱっと見で日本人かもしれないと、皆さんは思われるかもしれないですが、日本語はできないんです。しかも、ちゃんとした日本語は一番苦手です。自分が日本語を一定話せるようになったのは、テレビのお笑いとお立ち飲みで一緒になった方たちのおかげです。だから、ちゃんとした礼儀正しい日本語は本当にできなくて。そのせいで、何度か居酒屋で殴られそうになった経験もあります。こんな感じなので、ルー大柴さんみたいに英語を半分、日本語半分で、しかもすごく変な発音でしゃべったら、隣の酔っぱらった老人に「おい、あんた、もう日本語ちゃんとしやべれや」と言われた経験が何度もあります。それも含めて、大阪は楽しいなと思ってます。

20年間近く大阪に住んでいますけど、やっぱり大阪は、一外国人からすると、すごく住みやすいんですよ。楽しいし、便利とか安全だけじゃなくて、実は、大阪の中でもいろんな人がいて、いろんな文化があって。外国人からすると割と住みやすい。しかも楽しい。なので、奥さんも日本人だし、子ども2人生まれて、しばらくは、まだ中央区にいます。今後ともよろしくお願いします。

【日ノ下議長】

どうもありがとうございました。以上のお話を受けて、委員の皆様よりご質問等ありませんでしょうか。なにかございませんか。よろしいですか。

それでは、次に移ります。

洪 玉娟（ホン トビー）様、林 俊銘（リン ライアン）様、よろしくお願いいたします。

【洪 玉娟氏】

皆さん、こんにちは。

中央区にあるホテル Just Sleep 大阪心斎橋の洪と申します。

【林 俊銘氏】

同じく、Just Sleep 大阪心斎橋セールスマネージャーの林と申します。よろしくお願いします。

【洪 玉娟氏】

私は（トン氏のように）日本での生活を 20 年も経験しているわけではないんですが、来日して 9 年目となります。

おそらく皆さんが最初にお聞きになりたいのは、いつから大阪にいますかでしょうか。私は、最初、箱根で 1 年、ワーキングホリデーをしていました。その次は、名古屋で 3 年、那須で 1 年の後、東京を経て、大阪に移り住みました。私としては、大阪は安心と安全と住みやすさで一番好きな場所です。

ワーキングホリデーで箱根に来日した理由ですが、自分は台湾のホテルで働いており、大学時代から日本のおもてなし文化に興味を持っていたためです。

最初は、スタッフに外国人が一人もいない旅館で働きました。従業員はほぼ 60 歳以上で、私の両親ぐらいの年齢で、皆さんこう話した方がいい、敬語はこうに使う方がいいと教えてくださる風土の下で、日本語や仕事、文化を学びました。

その中で、日本の文化の深さに感銘を受け、また、旅館の女将さんのように着物を着られるようになりたいと思い、減量したこともあります。私は来日して 9 年ですが、これからも日本で生活したいと思っています。

次に、このような素晴らしい場に招待していただきありがとうございます。

弊社のスタッフは、30%がネパールのスタッフ、30%が台湾のスタッフ、30%が日本のスタッフです。私は人事を担当しておりますが、月 1 回の頻度でスタッフ全員との面談を行っています。

やはり、一番難しいのは、生まれ育った国、環境が異なることによる習慣、考え方の違いです。報・連・相は当然必要なことだとスタッフ全員が分かっていますが、スタッフによりそのタイミングの考え方が異なっており、いつ報告しないといけないかについてスタッフ間で誤解や齟齬が生じてしまうことから、月 1 回のコミュニケーションが必要になります。

また、日本文化にある調和の精神が、外国人にとってはとても難しい。調和はどこまで必要なのか。そのバランスや、線引きが難しく、言う方がいいのか、言わない方がいいのかの線引きが分からない。

直球で言って、いますぐ解決した方がいいという文化で生まれ育ったスタッフもいるので、弊社としても大きな課題だと認識しております。やはり、お互いの文化や考え方を知って、共生社会をどのように実現するかが一番重要だと思います。

続いて来日して3年目の林から、自身が驚いた生活習慣を皆さんにシェアさせていただきたいと思います。

【林 俊銘氏】

まず、ゲストとしてお招きいただきましてありがとうございます。本当に光栄だと思っております。

それでは、私が一外国人として、またホテルを運営する一員として、見てきたことや、お客様からのフィードバックも含めて、驚きの文化の違いがあると感じたことをまとめましたので、少しだけご紹介したいと思います。

まず、飲食に関して驚いたことです。おそらく皆さんにとっては当たり前のことだと思いますが、真冬でも氷水が提供されること。これは、自分は最初日本に来た時、びっくりしました。真冬の気温が低い中でも、なぜ氷水が提供されるのでしょうか。

一部のレストランでは、氷なしにしてほしいとお願いしても拒否されたこともありました。3年間生活してきた中で段々慣れてきましたが、麺をすする音とか、冷たい麺など、いまだに慣れない部分もあります。やはり台湾人の習慣といえますか、食べ物絶対温かいうちに食べたほうがおいしいと思っていますので、これはまだ挑戦中です。

時間も時間ですし、意見交換のときにお話しが出るかと思いますので、少し割愛させていただきますながら、お話しします。

交通機関のルールです。電車は毎日皆が乗るものだと思いますけれども、やはり日本の電車の中だと静かが基本。荷物の持ち方や、順番を守って並ぶところは、自分の国では、少しはできておりますが、日本ほどではないという部分も多くあります。

一番慣れないのが、車よりも歩行者を優先すること。自分の国・台湾だと、車は歩行者がいても関係なく走行します。自分が日本に来てから、私（歩行者）は車を優先させたい、車も私（歩行者）を優先させたい、となってお互い譲り合うことが多々ありました。これから、もっと慣れていかなければなりません。

それと、ごみ箱が少ないところは、最初は結構自分も苦戦しました。台湾だと、例えば地下鉄の中でもコンビニの中でも、多くの場所にごみ箱が置かれています。日本では、駅や公園で、どこにごみ箱があるのか分からず、探すのに一苦労だったこともありました。

一番苦戦しているのが、エスカレーターで立つときにどちら側を空けるかという問題です。大阪が左側、東京が右側となっていて、自分は大阪に慣れておりますので基本的に左側を歩くのですが、たまに床に矢印が書かれていてここからは右側通行ですとかがあり、じゃあどっちやねんみたいな感じになってしまうことがあります。

最近は他の都市に行ったりもしますがけれども、私は自然とエスカレーターでは左側を歩いてしまいますので、大阪出身であることがバレバレだろうなと思っていました。

まだ他にもあるんですけど、割愛させていただきまして、意見交換の際に共有させていただきたいと思います。

私からは以上となります。よろしくお願いします。

【日ノ下議長】

どうもありがとうございました。ご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、次に移ります。大島 勝久様、よろしくお願いいたします。

【大島 勝久氏】

ファースト・スタディ日本語学校の大島と申します。よろしくお願いいたします。

先ほどのゲストの方もお話しされていたので、もういいかなと思ったんですけど、コアでリアルなお話をちょっとさせてもらいたいと思います。

まず留学生といわれるものは、いくつか種類があるんですけど、例えば専門学校にいる留学生、大学に通っている留学生。私が今からお話するのは、語学留学に通う留学生です。

入国管理局の定めにより、語学留学は2年間と決まっております。3年以上はありません。この2年間で進学先が決まらなければ帰国。就職先が決まらなければ、入管の指導に従って速やかに帰国させられるという規定になっています。なので、語学留学に来て2年間勉強して、やはり帰国しなければならないというところでかなり毎年揉めます。もっと日本で就職活動をしたい。いや、規定は速やかに帰せ。ここの間でせめぎ合いが行われます。全体像としてはそういうふうになります。

4年留学の場合を説明します。語学留学は先ほど申しましたように2年間です。でも、留学生たちは2年間もありません。会社や専門学校が日本語能力を判別するときに、大きな指標としているのがJ L P Tといわれる日本語能力試験というものがあります。これは半年に1回です。新入生では7月に試験があります。

ところが、新入生は受けられません。なぜなら、受験申込が3月だからです。入国した時には受験申込が締め切られています。そして、最後の試験は12月。1年経って12月に試験を受けても意味がありません。就職活動が終わっているからです。進学先が決まっているからです。

ということは、彼らにとって実質1年しかないのです。この1年の中で、学費と生活費を稼ぐためにアルバイトに行って、午前授業か午後授業か日本語学校に来て、そして家に帰る。これをグルグルグルグルやっているというのが現状です。

私どももそこからちょっと脱せないかなといろいろ工夫をするものの、やはりスケジュール感というのはかなり厳しいので、文化を教える余裕がない。これが1つです。

皆さんが思われる、外国人に起因する事件と申しましたら失礼かもしれません。トラブルですね。例えば、分別ができない。なんで外国人はちゃんと出さないんだ。すみません、分別をやっている国は世界で7か国しかないんです。知らないんですよ。なぜプラスチックを分けないといけないのですか。から始まるわけです。

ここで、次です。夜中うるさいです。なぜなら、彼らは基本、働き終わったらパブに行くという習慣があるんです。みんなと今日1日頑張ったねと言ってお酒を飲む。みんなが集まってコミュニケーションをとるのが基本なんです。日本に来ると、午後8時を過ぎたら静かにしなさい。ではどこで祝ったらいいのか。これがトラブルになります。

次に、水漏れの話です。結構これはあると思うんですけど、外国の方は台所の排水がループを描いて下に落ちているなんて知らないんです。そんな水道設備のシステムは海外にはない。だから、流したら下に落ちるものだと思っている。ところが、日本の排水管は臭いが上がってこないため1周してるんです。詰まるわけです。後に耐えられなくなった排水管が破裂する。そうしたら下の階の人から、外国人は何をやってるんだと言われる。

これらを考えたときに、実は、外国人本人に起因するトラブルというのは、そんなになんていんですよ。ここが面白いところです。日本は世界でも最高水準の文化と礼儀作法とシステムを備えています。そこに憧れて来るから、彼らは留学に来るわけですね。つまり、憧れている段階で何も知らないのです。なので、トラブルになることが多い。

でも、そのトラブルの原因はよくよく見てみると、国同士の違いであったり、システムの敷き方であったり、生活の状況というのをどう作っているかの違いというのが意外と多い。そこに理解があると、事故やトラブルと言われるうちのおそらく70%は回避できる。ただ、ごめんなさい。日本語学校でこれを教える時間がないんですよ。

ここが私たちの悩みどころで、私は生活管理課の仕事をするようになって10年です。2年刻み、正確に言うと1年ごとに留学生が来ます。大学は最長2年間です。2年間でこれらを教えるというのは無茶な話です。どうにかならないのかと思っているところがたくさんあります。

かつての日本で1970年代に頑張ってくださっていた、新聞配達をしながら学校に通う方っておられたでしょ。覚えがあると思います。そういう方々が基本だと思ってください。彼らは確かに未来を掴むために、願いを叶えるために、人生計画が母国では成立しないから、例えば国情によっては政権が信用できないということで、脱出ゲーム的に日本に来られた方もいます。あるいは、母国で人口が多すぎて、人生設計がままならない。そして日本で生活していけないかということで来ている方もいます。

そういう外国といっても事情が全然違うので、なかなか1つの色で表すことは難しいという状態になっています。

例えば、外国人で、あるあるでいうと、提出する書類が遅い。日本人のように期限を守らない。来週の月曜日に出せと言うたら、来週の月曜日に出しなさいという話になるのですけど、例えばインドの話です。ニューデリー出身の留学生です。卒業証書発行されるのは卒業をしてから3年後。分かりますか。卒業証書は卒業してから3年後に発行されるんです。この価値観で日本に来て、月曜日に出せと言われたらどうなるか。出しませんよね。

そもそも国に信用がない子たちが来ているので、そこから教えないといけない。日本は

大丈夫なんだよと。君たちを裏切りはしないんだよというところから教えないといけない。というところが1つあります。

例えば、入国管理局は、さっきのグラフでお示しましたように、卒業前に在留期間更新というのがあります。つまり、ビザを延長するという話です。1年3月です。最長で出るのは。最短が6ヶ月です。そして入学期間は2年間です。時間が足りません。だから、在留期間更新で延長しないとイケない、この書類には全て和訳をつけろと言われます。審査するのが日本人の審査官だからです。では、その和訳を留学生が作れますか。それが作れるんだったら語学留学はしてないよね。でも、すべて日本語の訳をつけろと言われます。なので、私どもは留学生のその書類、卒業証書とか、生活実態、母国の親の名前、住所、氏名、働いている場所、預金通帳残高等々の書類を作って入国管理局に出します。

うちの学校は、今、本校で定員が440名、分校が140名、泉大津校も140名いますね。この半分が更新するわけですよ。4月に来ているので。この人数の書類を全部作ると。これだけで数ヶ月かかると。で、よく思うんです。私は一体何をやっているのだと思うわけですよ。書類作成を延々やっているのです。彼らには必要なことなんですよ。

でも、私たち生活管理課なんです。生活のことを何もやっていないんです。これが残念で仕方がない。こういうのが実態です。やってやりたいことはたくさんあります。僕も書道家の端くれですので、自分のアトリエに留学生を招いて、やろうぜ、字を練習してみいひんってやったり。彼らがよくしているのが、パソコンでアニメを見ているわけです。パソコンでしっかりアニメを見ているわけです。うちに来いよと。大きい画面で見せてやるから、好きなだけアニメ見せてあげると。その代わり先生の言うことは聞いてねっていう話をしています。そんなことをやったりしますが、限界があるんですよ。

皆さんが共生の話をするときには前提条件があるはずですよ。それは、外国人がまず日本のルールを守ってねと。その上で外国の文化を受け入れようねという無意識の階層というのがあるような気がします。日本人は自ら、あなたの外国の宗教を教えてとは言いませんよね。不躰だと思うだろうし、コミュニケーションができていない中でそんなこと質問できないよな。みたいな感じで思われているのかなと思います。ところが、彼らはこういう状況なんです。飢えているんですよ、日本のことに。

でも状況としては、2年といえども、2年はない。この国で生きていくためにはアルバイトしながら学校に行かないといけないと。で、先ほどの逆を言いますね。分別できないのはなぜかとか、なぜうるさいんだという話は、これを逆転すると、外国人にとって日本人は怖いんですよ。注意される対象だからなんですよ。だから彼らから一歩踏み出せというのはちょっと無茶なところがあるんです。ごみを出したら怒られる、電話でしゃべったらうるさいと言われる。その人に自分から行けるかどうかと言われると、それは結構勇気が要りますよね。

ということで、学校としては、できるだけ日本の文化に触れてもらえるような、日本の価値観に触れていただけるような取組というのを学内のイベントとして実行しています

けれど、所詮イベントなのでパワーが足りません。その機会が圧倒的に少ない。もっと触れさせてやることができたなら、もっと理解させてやることのできるのにとということです。そこが、我々学校として今、課題に直面しているところとなります。

できるだけやろうとは思っているのですが、なかなか日本語学校も学校ですので、年間授業時間というのが決められているのです。440 時間。この時間を達成しないと学校の授業としては認めませんという話なので、自由に行事がなかなか組めない。その中に冬休みがあり、夏休みがあり、春休みとなると。彼らの未来のためには、文化教育よりまず日本語能力試験の証明書という話になるわけですね。これがないと未来が切り開けないという話になるから、みんなの意識はそっちにいく。

でも、日本で生活して、進学して、勉強して、働いて、頑張っていくためには、実は今、文化を教えてやらないといけない。一番最初に。それが彼らの可能性を一番上げてやれるはずなのになと思ひながら、肩書きは生活管理課で書類を作っているというのが実態です。この上で、皆さんのご質問を受けられたらと思っています。

よろしくお願いします。

【日ノ下議長】

ありがとうございます。

ご質問ありませんか。よろしいですか。それでは次に移ります。

田中 浩昭様お願いいたします。

【田中 浩昭氏】

こんにちは。Minami こども教室の田中 浩昭といたします。

最初に話されたフィリップ シェンハオ トンさん。桃園幼稚園のPTAの会長をされていたということですが、私は桃園幼稚園出身なんです。60 年前です。今でも幼稚園があって、すごく感慨深いものがありますね。小学校はなくなっていましたけれど。小学校は桃園小学校です。

お手元にリーフレットがあると思うんですけど、これを見てもらえれば分かってもらえると思うんですけど。裏には多言語もあります。それから二次元コードもありますので、これもまたよかったら見てください。ホームページに動画が載ってまして、プロのドキュメンタリー映画の監督さんが作ってくださったので、非常にクオリティの高いものですので、よかったら見てください。

Minami こども教室は、小さな、小さなボランティア団体です。法人格ありませんし、専従職員もいないというところなんです。

なぜ Minami こども教室ができたかということなんですけど、2012 年 4 月に島之内地域で、外国人女性による母子心中事件がありました。亡くなったのは、南小学校に入学してすぐの 1 年生です。おそらく、お母さんがいろんな事情で困ったけど、頼るものがない

と、頼れる人がいないと、孤立しているということだったんだと思います。

その事件を受けて、このようなことは二度と繰り返してはならないということで、翌年9月に設立いたしました。

活動内容としては、まず、火曜日に学習教室をしています。保護者の相談事業をしています。

学習教室は、基本的に宿題を一緒に見るということになっています。なんで宿題なのかというと、小学校の低学年の子なんかだったら、大体親が見ますよね、宿題。教えてあげ るんですけど。外国人の親の方は日本語が分からないので、教えてあげられない。ということは宿題ができない。できないまま学校に行ってしまうということになってしまいます。

週に1回だけなんですけど、火曜日には一緒に宿題をやって、宿題をしてあげると、水曜日に宿題持って行けると。先生に「見て、見て、やったよ」と言えるんですね。先生に褒められます。褒められると自信がつきます。褒めることは教育の基本だと思いますけど、そういう場が週に1回だけですけど、作ることができるんじゃないかというふうに思っています。

子どもたちですけど、フィリピン、中国、ネパール、タイ、ベトナム、台湾、ブラジルなど、多岐にわたっています。最近はネパールと中国の子が多いです。

今年でもう13年目です。小学生も6歳の子どもは19歳になって、もう成人しています。成人して就職や進学した子もたくさんいます。どんな仕事をしているかというと、看護師、美容師とか、調理師あるいは警備業、機械の製造現場、それから溶接の資格を取ってそれを活かす仕事。という職についてまして、大体どれも今、人手不足なのか、将来人手不足になるであろうというふうな職業です。子ども教室の子はもう、日本社会を支えているというふうに言えるのではないかと思います。

大学にも20人以上行っていてまして、今年通った子は、教育学部で数学の先生、算数と数学の先生になろうというふうに目指しています。

それから、こども教室を運営する上で4つの要素があると思うんです。人と物とお金と場所です。どれも大事なんですけど、特に場所。今は中央区子ども・子育てプラザ、大阪市の市立の建物ですね。それから道仁連合会館という連合自治会の建物を使わせてもらっています。無料で使わせてもらっているのも助かっています。物もある程度置かせてもらえます。

もし、この2つがなくなってしまうと、活動自体ができなくなってしまうので、これは大事にしていきたいというふうに思います。

それから、中学生から日本に来る子もいます。ネパールの子も割と多いんですけど。親が先に日本に来て、子どもを呼び寄せるというパターンなんですけど、その子は全然日本語ができません。中学で2年、3年に入って、卒業したらどうなるのかということなんですけど、やはり高校に行きたいともちろん言います。

府立高校には、今、日本語指導、日本語を教えてもらえる高校は8校あります。

その8校について、入学試験があるんですけど、通常、英・数・国・理・社の5科目なんですけど、その日本語指導をしてもらえる、いわゆる日本語枠と呼んでいるんですけど。そこの入試は英語と数学だけで、作文もあるんですけど、作文は日本語でなくても母語でもいいです。ネパールから来た子はネパール語で書いてもよいという選考方法をしてもらっています。日本の中でも優れた制度だと思います。

Minami こども教室でも受験指導もしています。その日本語枠にはこの3年間で17人が合格しています。日本語が全然できなかった子でも、半年ぐらい経つと、街で会うと世間話ができるぐらいに、明るい顔で対応してくれます。日本語ができないうちは、本当に共通言語がないので、暗い雰囲気になってしまうんですけど、言語を獲得するのはそういうことなのかなというふうに思います。

ただ、今8校と言いましたけど、8校で募集人員132人なんです。

今は受験希望が多くて、去年で言うと347人いたんですね。倍率2.63倍です。ご存じのとおり、大阪府立高校というのは半分ぐらい定員割れなんですけど。その中で日本語指導が非常に厳しいということで、大阪府になるんでしょうけど、募集人員を増やして欲しい、それからもっと学校増やして欲しいというふうに要望を上げてるんですけど、その辺で、また力になっていただければありがたいです。

なぜ高校にこだわるのかというと、高校卒業して就職が決まったら、先ほどもお話がありましたけれども、在留資格が安定するんですね。定住の資格が取れるんです。

家族滞在で来ている子が割と多いんですけど、家族滞在は先ほど言うてはりましたように、留学生と同じように週28時間しか働けないんですね。ということは正社員にはなれないということです。

この私が着ているTシャツ、With neighbors of different origin。出身地が違うお隣さんとともにということ。違うということを前提にして、一緒に生きていきましょうというメッセージのあるTシャツです。

以上です。

【日ノ下議長】

ありがとうございました。質問はございませんか。

よろしいでしょうか。

ないようでしたら、ゲストによるスピーチを終了したいと思います。

ご自身の体験等に基づく貴重なお話をしていただき、誠にありがとうございました。

委員の皆様、改めて4組のゲストの皆様に拍手をお願いいたします。

(一同拍手)

それでは、4つのグループに分かれて「多文化共生に向けた相互理解」をテーマとした意見交換に移ってまいります。

なお、議論が拡散しないように、外国人観光客ではなく、外国籍住民の方を中心として、地域コミュニティや住民生活との関係性について意見交換を行っていただきたいと思っています。

意見交換は18時15分までを予定しており、その後テーブルごとに出た意見を代表の一人から発表をお願い申し上げます。

それでは、私も議長席を降壇し、意見交換に参加します。

委員の皆様、積極的な発言をよろしくお願い申し上げます。

【白川区政企画担当課長】

先ほどなんですけれども、市会議員の鈴木先生がお越しになりましたので、皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

ーグループ意見交換ー

【白川区政企画担当課長】

まもなく、意見交換の終了時刻の5分前となりますので、そろそろ意見のまとめに入っていただきますようお願いいたします。

ーグループ意見交換ー

【日ノ下議長】

お時間となりましたので、この辺で意見交換を終了とさせていただきます、よろしいでしょうか。

それではまずAテーブルから発表をお願いします。

【古道委員】

Aテーブルから発表させていただきます。

このグループでお話していた中で、お互いをまず知ることが大事なんだなというところで。そのために、どんなことをしたらいいのかっていうところが、またその次のステップで、なかなか意見が出にくいところではあったんですけども、まずは少しずつコミュニケーションをとっていくところで、例えば、楽しい催し、地域でされている盆踊り、餅つき大会など皆さん方が入っていきやすそうなところでもって、少しコミュニケーションをとっていくことが必要ではないかなというご意見が出ました。

いろんな活動を始めるきっかけとして、報道をきっかけとして、この活動に参加していたというような話をお聞きして、報道の力ってすごく大きいところではあるのですが。関心のある人は活動に参加していくし、ない人はなかなかその活動に参加していかな

いしっていうところがあるので、難しいところではあるんですけども、少しずつではありますけれども、先ほど申しあげました楽しい催しなどをきっかけに、なにか風穴を開けていけばいいかなというようなご意見が出ました。

以上です。

【日ノ下議長】

ありがとうございました。

続いて、Bテーブルよろしくお願いします。

【林委員】

ありがとうございます。

Bテーブルの方では、まず初めにゲストで来られたトンさんから話題提供として、日本だと、日本人はみんな大体知っているけれども、どこにもその明文化されていない、ルールが書かれてないことが結構多いということが、外国人がまず困ることとして考えられるというお話をいただきました。

例えば、新幹線に乗るとお弁当は普通に飲食しているけれども、それを通勤電車でお弁当を食べるとそれを怒られると。そういったところって、なかなかそこまで細かく具体的なルールというのは書いてないので、日本に住み始めたばかりの外国人の方だと、そこまでのルールの理解が進んでなかったり、日本人だったら、子どもの頃から親に連れられてお出かけしたりとか、長年日本に住んでいる中で、徐々に理解していくところなんですけれども、外国人の方が来てまだ数ヶ月とかだと、そこまでなかなか分からないというところが、結構困るところじゃないのかとのお話をいただきました。

ルールで言うと、日本人でも細かいところまで、みんなが理解しているのかというと、なかなかそうでもなくて、新幹線で物を食べるにしても、豚まんはいいのかどうか、お酒に酔っ払うのはどのぐらいまでだったら大丈夫なのか、周りに迷惑をかけてはいけないとか、そういうところも日本人それぞれでルールの理解が分かれる、そういったところもあるというお話をいただきました。

あと、仕組みですとかルールづくりというところで、例えば公務員になる、日本で行政で働くというときに、やっぱり国籍の制限があったりですとか、いうところで外国出身の方が行政の側の人間として公務員になるのがちょっと難しかったりですとか、どうしても外国出身の方々とか多様な方々が、日本の地域のルールを作るような場に参加するということもなかなかハードルが高いので、地域のみんなと一緒にルールを作っていくというふうな風土を作っていくのも、今後大事になるのではないかというお話がありました。

Bチームの発表は以上になります。ありがとうございます。

【日ノ下議長】

ありがとうございました。

では、続いてCテーブルお願いいたします。

【兼岡委員】

はい、Cテーブルの意見です。

まず、外国の方で日本にお住まいの方を限定にお話をしてくださいということだったんですけども、なかなかちょっと最初の時はそういうお話が、外国の方、お住いの人に特定したお話が少し出にくかったんです。というのは、住んでおられるところには外国の人がいないのでちょっと分からないですね、というご意見もあったのですが、それを受けて、他の委員から南小学校さんの具体的な話をしていただきました。ちょっと外れるかもしれないんですけど、南小学校さんでの話を中心にさせていただきます。

南小学校さんは、今6割が外国籍の方で、日本人の方が4割ほどだということで、外国の方が多いと、どうしても地域の校区内の日本人の方が南小学校さんを選ばないで、私学に流れてしまったり、他の校区に行ってしまうことが多いので、そこは少し寂しいなと思われているということです。

それと、その外国の方がたくさんいらっしゃるから治安が悪いってということは、まずそんなに目立ってそんな感じたことはないです、ということですね。

むしろ、子どもたちの間では、外国のいろんな国の、南小学校さんでもたくさんの外国の方がいらっしゃって、いろんな外国の方と日本の子どもたちが触れ合うのは、とてもノーマルにどんどん触れ合って、なんのトラブルもなく、子どもたちはどんどんメリットの方が多いのではないかと。デメリットはそんなにないのではないかとということでした。

デメリットというか、外国の方が多から、学習が少し遅れるのではないかとという日本の親御さんの懸念があるようですけれども、それに対しては、もっとやはり、いらっしゃる外国の方に日本語のケアをしっかりとうちよとしていって時間とか配分もしていただいていたらいいいのではないかとということもありました。私の取り間違いでした。十分していただいているそうです。なので、校区内の日本の親御さんもどんどんご安心なさって、南小学校に来て欲しいという、そうですね、南小学校さんは児童数が少ないですね。玉造校区は児童数が多くて。この問題もまた別の機会にお話しさせていただきますと思うんですけども。

うちのゲストさんでは、Just Sleep さんだったので、台湾の方のお話。台湾の方と台湾に興味のある人、日本人の方も泊まっていただく、台湾の方が泊まっていただくことも多いですけれども、台湾に興味がある日本の方、それから台湾に興味があるいろんな外国の方が泊まっていただいて、その中で Just Sleep さんが、交流の場をいっぱい設けておられて、町会にも入っておられるということは、私はすごくありがたいことだなと思いました。

その話の中で、経営・管理ビザが取れて在留されて、その問題がというのがあったのですけれど、すみません。発表者である私の理解が追いついていないので、これも、それが問題になっているというのもあったんですけれども、また別の機会にちゃんと教えていただきたいなと思いました。

そして、もう1つだけ。自転車の放置問題。これ、日本人でもそうですね。この頃よく持ってかれるので、気をつけるようになりましたが。少しくらいならいいかと、区役所の前でも、割と外国の方がちょっと停めておこうと言って、1日中停めていたりして難儀だなというのがあったのですけれども。

自転車問題に関しては、区長もしっかり対応していただいております、駐輪場なんかも割と整備されてきていますので、それをもっと知っていただいて、3時間無料の駐輪場もありますので、それをもっと発信して、外国人の人だけじゃなくて、日本人の人もそこへ停めて、住みよい中央区にしていきたいということです。

以上です。Cテーブル発表終わります。ありがとうございました。

【日ノ下議長】

ありがとうございました。

では、続いてDテーブルお願いいたします。

【菅委員】

Dテーブルの発表をさせていただきます。

Dテーブルでは、昔の地域のつながりのようなものが必要ということで、日本の文化を覚えてというところを周知できればいいなという話が出ておりました。

認識の違いを埋める方法は、橋渡しのことができればいいという意見が出ております。

外国にルーツがある子たちが辛い経験をしないように、それが将来に向かって、大切だということと、地域社会で親と一緒に暮らしていけるのが大切だという意見が出ております。

また、やさしい日本語のさらなる普及と、多言語による情報発信の強化、行政からの重要なお知らせや防災情報が本当に必要な人に届く仕組みづくりを一層進めていけたらなと思っております。

町会や地域行事を通じた顔の見える交流の機会を支援、言葉が通じにくくても地域のイベントや共同作業を通じて顔馴染みになることが、日常の助け合いや災害時で繋がると考えております。

国籍や文化の違いが人にはあって、誰もが地域社会の構成員として生き生きと暮らせる区の実現に向けて、積極的な取組を皆さんにいただけたらなと思っております。

以上です。

【日ノ下議員】

各テーブルの皆様、発表どうもありがとうございました。

それぞれのテーブルから多様な視点や貴重なご意見を共有いただきました。

どうもありがとうございました。

続きまして、議題（２） 区政運営 につきまして、事務局から説明をお願いします。

【白川区政企画担当課長】

資料２、資料３の運営方針については、事前に資料をお送りして内容をご確認いただいております、事務局からの説明は割愛させていただきますが、令和７年度については全体として順調に目標達成しており、令和８年度運営方針については、前回の令和７年度第３回区政会議でご確認いただいたものから変更ございません。以上でございます。

【日ノ下議長】

それでは続いて、参加者全員から一言ずつコメントをいただきたいと思います。

本日の意見交換を通じて感じたことや、気づいたことなどをお一人１、２分程度でお願いいたします。

区政運営の運営方針についてのご意見などありましたら、あわせてコメントをお願いいたします。

ゲスト、委員の順に、事務局からテーブル毎にマイクを回していきますので、ご発言の際には冒頭ご所属とお名前を名乗っていただいた上で、コメントをお願いいたします。

どうぞよろしくお願いします。

【田中 浩昭様】

散々しゃべったんですけれども、子どもを支えるのは、大人の使命ですからね。なぜ大人なのかというと子どもを守るためと私は思います。これから外国の人がたくさん増えるのは確実です。日本の人口減っていますからね。2050年には１億人を切るといわれています。このままのペースでいくと2500年には日本の人口50人になるといわれています。

今やもう、社会を支えているのは、外国の人たち抜きには成り立たないということは確実ですので、共に生きていきたいと思います。

【鳥居委員】

北大江連合の鳥居です。

今日、田中さんにいろいろお話聞かせていただいて、非常に面白かったというか、非常に価値があるなと思いました。

先日も別の話なんですけれども、障がい者の勉強で、どのようにして障がい者の支援をす

るのかというようなことを話しておりまして、やはり共通点がありました。あんまり基本的にそんな深く考える必要はないなど。内容的には深く考えないといけないんですけど。

加えて、地域活動に加えて、こうあらねばならぬ、という片肘張ってはだめだというのが私の考えです。

やっぱり世の中を見てみると、日本人というのはみんないい人ばかりだという印象しかないんですよ。たまに悪いニュースがテレビや新聞で出ていましたけれども。そういうふうなことで、町会活動などもいろいろ勉強したりしたんですけども。

結論としてですね、やはりこれを言いたいというのは、好きな人が、好きなものを、好きな時にやる、というふうなことで世の中うまくいく。あなたこれやりなさいと言ったところで、嫌な人にやらせれば嫌々やる。受けるほうも全然心が入っていない。こういうふうなことなんで。

繰り返しになりますけれども、好きなことを好きな人が好きな時にやると、いうふうなことでもうまくいくと思いますので、これを私は実践していきたいと思います。

以上です。

【浅宮委員】

浅宮と申します。

外国の方はうるさいとか、ゴミ出しをちゃんとできないとかいうことをよく聞くんですけど、今日の話を聞いて、それなりの理由っていうのが、その方たちのルールみたいなものがあるんだなということを知りまして、また理解を深めたいと思います。

ありがとうございました。

【中飯委員】

公募委員の中飯でございます。

本日も、大変勉強になるお時間をいただきましてありがとうございました。

皆様の意見をいろいろ聞きながら、外国の方々が非常に困っていることがいろいろあるというところですね。全くそういったことも知らなかったところでございますので、まずは、外国の方々がどういうふうに思っているのかというところを知ってですね、また、外国の方々と関わる機会を作るといとか、場を設けるとい、そういったことができて、そういう場をもってですね、どういった考えをされているのかというのを知りたいなと思いました。

今後、日本の人口が少なくなるというところで、支え合いながらやっていかないとけないのかなというふうに思っております。

自身でできることを続けたいと思います。

以上です。ありがとうございました。

【城委員】

中央区体育厚生協会の城です。

今日の話聞いて思ったんですけども、私は、普段というか、家の近所ではあんまり外国の方が住んでいるというのをあまり聞いてないので、分からなかったんですけども、大阪城とか旅行をしている外国の方をよく見かけます。その方を見て思うんですけども、昔と比べたら全然変わっているのではないかなと思っています。信号とかも全部守っておられますし、そんなんでは全然変わっていると思うんですが、やはり、家の近所とかで民泊の反対とかがある部分があるというのも聞いています。

それは、やはり今日の話聞いていたら、私たちの思いというのは、結果、至らなさや知らなさから来ているのではないかなと思っています。

今日の話聞いて、外国の方の見方はまた少し変わっていくのではないかなと思っています。

以上です。

【古道委員】

中央区社協の古道です。

本日はどうもありがとうございました。

ゲストスピーカーの皆様、本当にいろんな立場からお話聞かせていただきましてありがとうございました。

中央区社協でも相談の支援をさせていただいたりとかするんですけど、何か他に困っていることはないですかって言うとお聞きしても、ないですと答えられることが多くて、それは本当はないのか、その質問に対する、また別の質問を持っておられないから、もうとりあえずないですって言うとおこうと思っておられるのか、私たちが説明したことが本当に理解されているのか、されてないのかっていうのが、分からなくて悩むことがあります。

たまたまファースト・スタディ日本語学校さんとも共同で取組をさせていただくことがあるんですが、なかなか日本語学校での勉強やお仕事を、アルバイトとかをされたりとかして、なかなか時間がない中、地域の方と関わる時間を持ちたいっていうことで、いろいろ先生方がご努力されて、交流する場を持っていたりとかをしています。

風船バレーしたりとか、皆さん方が踊りを踊られたりとか、楽しく過ごすことで少し距離が縮まるっていうようなこととかもあるのかなと思います。

Minami こども教室さんとか、日本語学校さんとか、そういう団体さんの方でちょっとご努力いただいて、少しずつ繋いでいく機会とかを増やしていただきながら、またその輪がどんどんと広がっていけばいいかなというふうに思っております。

ありがとうございました。

【フィリップ シェンハオ トン氏】

改めて、トンと申します。

今日、このような貴重な時間を与えていただきありがとうございました。皆さんとの意見交換ですごく感じたのが、多文化共生という問題は簡単に解決するものではないと思っていて、そういうのはこうしたらいいではないかということはないと思うのですが。やはり、第一歩として、こういう場、中央区でお互いに外国人たちこういう問題がいろいろありますよ。でも、私たちがこういう問題があったときに、日本の皆さん、ちゃんと話を聞いてくれて、共感してくれた部分もあって。それは心の負担がすごく減るのです。

やはり、こういう会話をする場が増えれば増えるほど、おそらく今まで見えなかった問題も見えてくるし、いろんな問題に対してもっと解決しやすくなるのかと思います。

先ほど古道さんが、外国人に対して何か困ったことないですかという話ですが、おそらく、困ることはいっぱいあって、ありすぎて、どうお答えするか分からないのです。

例えば、こういう場がいっぱいあって、いろんな外国人の人たちの話を聞いて、大体外国人はこういうことに対して困っているな、大体例えば、日本、行政側も何か困ったことないのですかではなくて、こういう最近ごみの問題ありましたかなど、もう少し具体的に変わってきたら、おそらく、今後お互いにいろいろお話ししやすくなるかなと思います。

本当にこういう場は素晴らしいと思います。

ありがとうございます。

【水上委員】

大阪公立大学の水上です。

ゲストスピーカー皆さん、貴重な情報いただきありがとうございます。

今日、この短時間でもいろいろと教えていただいて、やはり交流するってことは特に重要だと思います。

洪さん、林さんの資料の中にあった、「察する」文化という日本のことで、私は住んだことないのですけれども、長屋に住まっていたり、また昔の障子とかの文化で考えれば、察するというのも自然と日本文化に定着していったところっていうのはあるのかと思うのですが、中央区のように立派なマンションばかりになってしまうと、なかなか壁も厚いし、察することが難しくなっているような気がするんですが。

今のトンさんのお話にあったように、いろいろなことを察することで、いろいろ改善していくところはあるのかなというふうに皆さんの話を聞きながら思ってきたところです。

いきなり大きな行動は難しいかもしれませんが、日本にもし察する文化というのが根付いていたならば、そういったところでお互い暮らしやすい社会を作っていけるかなと思いました。

今日はありがとうございました。

【金堀委員】

南中学校の話は聞いてたんですけど。本当に大変だろうなと思いました。

南中学校に来てくださいと、こんなふうに教育していますよと言って小学校回りをしてもなかなか児童が集まらないんですよ。外国の方も多くって。でもとってもいい子たちばかりだと聞いていました。

外国につながるのある児童は中学校を出たら本国に帰るからいい加減にしてるんじゃないですかと言われたりするけど、いやそんなことはないですよ、とっても一生懸命よく勉強もされているし、いい子ばかりだそうです。

多文化共生の問題は本当に大事な問題だなと思います。特にこの中央区は。この問題は、もっと多くの機会を作って、勉強をさせていただきたいなと思いました。

どうもありがとうございました。

【小森委員】

大阪商工会議所の小森です。

Bテーブルではですね、トンさんのお人柄もあって、非常に楽しく意見交換できました。勉強になりました。ありがとうございました。

その中で林委員が発表されたように、明文化がされてない部分がまだ多いんだよと。外国人の方もよく分からないことが多いということで、共有しないといけないという話にもなっておりました。

私はYouTube といったコンテンツがないんですかとお伺いしたら、いや中央区のホームページに日本の生活ガイドというコンテンツがあって、広報紙に二次元コードが載っていて、みんなが見られるようになっていて話がありました。ところが、アクセスがほとんどないということをお伺いしましたので、是非それを利用して、教材に使うとか、留学生の方で空き時間に見ていただけるかと思いますので、是非頑張って利用していただきたいと思います。

以上です。

【葛本委員】

公募委員の葛本です。

このチームで話を聞いていると、ルール、ルールというお話が出たのですが、あまりルールとしないほうがいいのかと個人的には思っていて、皆さんが心地よく、外国の方でも日本人でも、相手に不快な思いをさせないということが、ルールといえばルールかなと感じています。

外国の方がごみ捨てで何か問題があったときに、外国の人だからではなく、教えてあげたらいいと思うんです。教えてあげて、何曜日の何時までに出したらいいよという、相互のコミュニケーションが、外国の人だけに限らず日本人でもごみを間違えて出す方もおら

れるわけなので、お互いに声をかけ合ってコミュニケーションをして、お互いが住み心地の良いようなエリアにするためにはどうしたらいいかなと考えるのがいいかなと思いました。今日はありがとうございました。

【林委員】

本日はありがとうございました。

ちょうど私、1週間前の月曜日に、玉造にある日本学校ファースト・スタディさんに、少しお邪魔させていただいて留学生の方と交流させていただいたのですが、やはり、皆さん日本に夢を持って来られていらっしゃって。難しい日本語の勉強を平仮名、片仮名、漢字とまざった言語の勉強を一生懸命されていて。話を詳しく聞いていくと、日本の自動車業界で自動車に関わる仕事を将来したいという夢を持っておられたりとか。

やはり、そういうふうな日本に夢と希望を持ってこられている方々なので、やはり私自身も何か困ったときに、困ってなくても、手を差し伸べて協力し合って、一緒に明るい、いい日本の未来を作っていけるような取組や活動ができればいいと感じました。

今日は、ゲストの皆さんにも貴重なお話をいただきまして、誠にありがとうございました。

【洪 玉娟氏】

Just Sleep の洪と申します。よろしくお願いします。

この多文化共生をテーマとする会議に誘っていただいて、自分としては貴重な機会であったと思います。

最初のプレゼンテーションでは、一方的に外国人から気になること等を皆さんにお伝えしましたが、途中からは、逆に外国人に興味を持っている日本人に対して、外国人に対しての思いを知りたいと思いました。

もう一つお伝えしたいこととして、弊ホテルは、お客様のロコミや仕事を大事にしています。

最近でも1人の日本人のお客様から、食事にもっと台湾料理を入れたほうが良いとロコミをいただきました。特に朝食に、鹹豆漿（シェントウジャン。豆乳の中にラー油、油あげを入れた台湾の伝統的な朝食）を入れたほうが良いですよというものでした。

3年前、Just Sleep 大阪心斎橋の事業をスタートさせるとき、この導入について提案があったのですが、やはり本場ではない、台湾の味と少し違うとして、導入しませんでした。

しかし、お客様からの意見を受けて、本場の味とは違っていたとしても、お客様が台湾の朝食を食べたいということなので、翌月から導入させていただきました。

日本人のお客様でも、海外のインバウンドでも、ここに住んだお客様でも、意見をちゃんと伝えれば、相手も分かってくれるということが、ロコミでも大事だと思います。

あともう1つが、来年、弊社は日本で2号店となるホテルをオープンする予定で、2週間に一度の頻度で、デザイン会議を行っています。デザイナーは日本人ですが、デザイン会議のグループは台湾のグループなので、オンラインで開催しています。

社長は日本人で大阪人ですが、例えば、トイレの隣にスマートフォンなどの小物置場を設置するか議論すると、台湾のグループはお客様がトイレでスマートフォンを置けるよう設置しましょうとなりますが、逆に日本人の場合は、忘れ物が増えて皆に迷惑がかかるので設置はやめましょうとなります。ではどちらを採用するのかという話になります。

結果はトイレの便器と便器の真ん中にトレイを設置し、ちょうどよい置き場所にすることができました。

ホテルのデザインも同じです。日本人・外国人のいずれを主なターゲットとしたデザインとするか。

ハンガーを掛ける高さもそうです。日本人は長いコートを持っているので高い位置がいい、海外の方は短いコートを持っているので、低い位置がいいとなります。

我々としては、メンバー皆で意見を出し合いながら、お客様に一番好きになってもらえるホテルを作っていきたいと考えています。

もし機会があれば、海外の外国人だけではなく、もう少し日本の意見、地元の意見を聞きたいと思っています。ありがとうございました。

【林 俊銘様】

同じく Just Sleep 大阪心斎橋の林と申します。

改めまして、本日お招きいただきまして誠に光栄に思います。

自分の意見としましては、やはり中央区役所の中だけで物事を決めるのではなく、中央区に住んでいる外国人住民を理解しようとする姿勢に感銘を受けました。ましてや、このような場を設けていただき、本当に自分にとっても、すごく貴重な機会だと思いました。

あと、私は今年からちょうど西成区から人口増加数2位の浪速区に引っ越したのですが、もう少し早く知っていたら中央区に引っ越ししていたかもしれません。次は人口増加数1位の中央区に住みたいと思っていますので、また皆さんよろしく願いいたします。

【兼岡委員】

生涯学習の兼岡です。先ほども発表させていただいて、いっぱいしゃべりましたので、もうあんまりしゃべりたくないです。すごく個人的な意見です。

私は外国語学校のすぐそばに住んでいます。学生のお姉さん達が公園を掃除してくれています。ありがとうございます。

そして、私は飛行機苦手で、台湾に行くことはできません。是非 Just Sleep さんに泊めてください。

今日はたくさん勉強させていただきました。ありがとうございました。

【部奈委員】

大阪ガスの部奈と申します。

本日はありがとうございました。

ゲストの方のいろんなお話も聞けて本当にありがとうございました。

私、住んでいる場所が、中央区ではないのであんまり普段の生活の中で、外国人の方と言われてもピンとこないんですけども、今日の話で日本の中でも共通点ってあるのではないかと思ったことが1つありました。

地方に行くと、今は移住という形で、都市の方がどんどん移住される地域もいろいろありますけど、やはりそこでも同じようなことが、元々それぞれが培ってきた経験とかコミュニケーションっていうのは、そこの地域に行くと全然違うので、私も長野県にお墓があって帰ると、やはりそこの人たちのルールは大阪のルールとは違います。

そこで1つ考えないといけないのは、やはりお互いをちゃんと知らないといけないのではないのかなど。先ほどルールの話もあると思います。

中央区には中央区のルールというか、行政サービスのルールなどがあると思いますので、それはやはり住んでいる以上は、外国の方であつたりや元々住んでいる方も守っていく必要があると思うので。

ここは、中央区さんに、差し出がましいのですが、ホームページとか見にくいところがあると思うので、区民は住んでいる以上知る努力をする必要があると思うのですけれども、やはりもう少し分かりやすいものが必要ではないのかと思います。偉そうなことをしません。ありがとうございました。

【光武委員】

中央区子ども会育成連合協議会の会長の光武と申します。

多文化共生ということで、外国にルーツのある方が特に中央区に多く在住されており、その中でも都市である南地区の南小学校、中学校校区には特に多くて、1つ思うのはやはりウルトラCの解決策っていうのはないので、長い時間をかけながら徐々にお互いを知っていくことが大事だと思うのですけれども、その中で特に大きな原動力になるのが、子ども達だと思うんですね。

南幼稚園や南小学校とか、南中学校が経験している部分としては、過半数以上の外国にルーツのある子どもたちと一緒に学習生活を送ることによって、自然とお互いも理解し合えるということと、子どもの語学能力というのがやはりすごく高く、全く日本語を話せず転校していきたくても、1年もすると普通に日本語を話しながら、逆に親御さんは日本語を話せなくても、子どもに教えてもらうということもあるので、お子さんを通じて日本の文化であるとかマナーであるとか、トラブルが起きないような部分の知識を得ることもできますし、子どもさんをしっかり日本の教育の中で育てることによって、すごい人

材を時間かけて育てていくということが、未来に向けて外国人と日本人とが理解し合えるような環境づくりに一番、最終的には近道になるのではないかと考えています。

本当に誤解されやすいのですが、南小学校なんかは半分以上が外国にルーツのある子がいても、すごい子どもたちはもう健全に育っていったらいいし、学習もそんなに極端に遅れるということは全然なくて、やはり個人個人で努力をしている子はちゃんと伸びていくし、全然普通の日本の小学校、他の校区の小学校と変わらないというのも、実際あると思っていますし。

日本のここが特別ではなくって、これからの未来は、ますます外国人の比率はどの学校でも、どこの地域でも、増えていくと思うので、そういう部分では、やはり理解し合って住環境、いい環境をお互いに作り上げるというのは大事なことだと思いますので、そういうふうに少しずつしかできないことでも、地域の活動やいろいろな活動を通じて貢献できたらいいかなと思っています。

以上です。

【大島 勝久氏】

今日のご招待いただき、ありがとうございました。

ファースト・スタディ日本語学校の大島です。

弊校は、できる限り地域に出て何かやろうということで、掃除は、捨てるのはならぬということを教えるためにルール化しました。

今は、北は公園から南はもう少し下までぐるぐる回って掃除をさせてもらっています。

ちょっとしたことからなんです、多分。本当にちょっとしたことから始まるような気がします。

先ほどここではちょっと議論になったところではあるんですけど、もう少し簡単なところからね。踊りとか、お祭りとかそういうところから参加して、顔を見てあの人がいたよねといったところからコミュニケーションが始まる。その中で、これさっきの話で自転車停めては駄目だよではなく、この線から内側に停めてというのでは大分違うような気がするんですね。

そういうことを1つ1つ積み上げていけばいいな、うちの留学生に伝わってくれたらいいなと思って、また頑張ろうと思いました。ありがとうございました。

【真鍋委員】

大阪市中央区商店会連合会の真鍋です。今日はありがとうございました。

私はBarをやっております、ワールドカップのパブリックビューイングをやっていたんですけども、ワールドカップで皆さんご存じのとおり、日本の選手はロッカールームを綺麗にして帰る、日本のサポーターはスタジアムのごみ拾いして帰る、こういうのがニュースになります。これが世界的なニュースになるんですね。

それって、やはり日本人の気づかいとか配慮とか清潔感とかが、逆に特殊すぎるのだと思うんです。ただ、それがいい意味で非常に特殊なだけであって、海外ではそういったことはしない。ただ、今回それがFIFAの公式のニュースで出回ったときに、それを見習って、世界の様々な国のサポーターがロッカーを綺麗にして帰るようになった。世界の様々な国の選手がロッカーを綺麗にして、サポーターがスタジアムを綺麗にする、日本人の真似をし出したんですね。

それは、やはりその情報が届いて、これは素晴らしいことなのだという情報が届いたことで、それを模範にしてやれるようになったのかなと。

そうすると、やはり我々としては、中央区役所さんにももっといろいろな情報を届けて、これが近所で生活するためには、守って欲しいマナーだったり、いいことなんだよということを届けることで、近所に引っ越してきた海外の方ができるようになっていくのかと、そんなことを思いました。

以上です。ありがとうございます。

【麻野委員】

公募委員の麻野です。

個人的には、本日の区政会議のテーマ、意見交換をテーマとして、多文化共生とか相互理解ということが選ばれたということに深い感銘をまず受けました。

といいますのは、私は、特にネット上のいろいろな意見の交換とかそういったことに詳しいわけでもないし、どんな意見が今メジャーなのかということも正確に把握できているわけでもないのですけれども。肌感としては、やはり外国人と共生はもう無理だよとか、あるいは、こんな非常識なことをやっている人がいるみたいなことを過大に発信する、そういう少しゆがんだ言葉が、ネット上にかなり広がっているのではないかとそんな印象を持っています。

そのことに関して、本当にそれはもう由々しき事態というか、そういったことっていうのは、もう本当に修正していかなければいけない大問題だと個人的には感じています。

これが続いていって、これがもう日本の流れになってしまったら、日本の社会は本当に大きなダメージを負うことになってしまうと思いますので、今この時代に責任を持っている私たち大人の世代が、次の世代の子どもたちにこのままの状態、これがさらに悪化するような形でバトンを渡すわけにはいけないので、絶対に今の世代、私たちが何とかこの状態を食い止めてというか、これ以上悪い方向に進まないようにいろんな形で意見交換して、行政もまたそれにしっかりと関与をして、その流れを変えていくというか、よりよい流れを作っていくということが本当に必要だと思いますので、区政会議の場で、ゲストの皆さんが貴重なお話をお伺いして、私たちが知見を深めることができた今日の会議は本当に有意義だと思いますし、私もいろいろ学びをさせていただいて非常に感謝しております。ありがとうございました。

【菅委員】

公募委員の菅です。

本日は皆さんありがとうございました。

私も島之内のほうで働いていますが、やはりごみ出しのルール、騒音や、駐輪とか小さなトラブルは結構あったのですが、やはり、大島先生とか方々が言うとおりに、時間をかけて伝わりやすい言葉で伝えて、コミュニケーションはすごく大事なのだなというのを、本日改めて認識させられました。

今日は本当に皆さん、ありがとうございました。

【日ノ下議長】

ゲスト、委員の皆様、ご意見ありがとうございました。

それでは、最後に私からも一言コメントさせていただきます。

改めて4組のゲストの皆様、どうもありがとうございました。

この本日の議題の「多文化共生に向けた相互理解」、このテーマを白川さんからいただいたときに、委員の中でいきなり話せと言われても、何を話していいのか、とりとめのない話になるのではないかということで、できれば外国にルーツを持つ方、関係する皆様にお話をしていただいて、そこからこの会議を進めてはどうかと申し上げました。

本当に大成功だったと思っています。私は自画自賛しております。

私の年代は、やはり欧米の方にはコンプレックスがあって、アジアの方とか、イスラム圏の方とかアフリカの方とかに、差別や偏見を持っている人がまだまだいると思います。

ただ、救われるのは私も娘2人おりますが、娘に聞いたらそのようなことは微塵も感じません。やはり日本の教育がいいのか、行政の方からも皆さんしっかりやってもらったのか、やっぱり日本も変わってきていると信じています。

加えて、先ほど言われましたけど、過激なSNSで外国の方を非常に貶める、そういったものが多々見られるのは非常に残念です。

これがやはり世代が変わって、若い人たちがそういう教育を受けて、外国の方と共生してやっていける、そういう時代が必ず来ると私は信じております。

それに向けて、行政も日頃から啓発活動をやっていただき、私たちもいろんなこういうことはだめよと、こういうことはいかんことではないかということを、やはりはっきりと物を言えるように皆さんがやっていってくださったら、もっともっとスピードアップして、いい日本、いい外国の方との共生を迎えられるように思っています。

今日は本当にありがとうございました。

それでは、追加のご意見があれば、よろしくお願いします。

ないでしょうか。それでは、事務局からお願いします。

【白川区政企画担当課長】

順番が前後してしまうんですけども、他の公務により途中退席された眞鍋委員からコメントをお預かりしております。

多文化共生の前提として、外国人住民に一方的に日本文化の受容を求めるのではなく、相互理解と相互尊重の視点を大切にすべきとのご主旨のご意見でした。

以上ご紹介でした。

【日ノ下議長】

どうもありがとうございます。

それでは続きまして、お忙しい中、助言のためにご出席いただいております、中央区選出議員の皆様からも一言ずつ頂戴したいと思います。

まずは野上議員からよろしくお願いします。

【野上議員】

遅くまで本当にお疲れ様でございます。

今日ゲストにお越しいただいた皆様方に本当に勉強させていただきました。

また、委員の皆様方におかれましても本当に活発な議論をしていただいたのかなと、心より感謝申し上げます。

私もなかなか知らないことが多くあって、制度とか国籍の制限になってくると法律など少し憲法にも関わってきてしまうのかと思いつつも、今日皆さんのご意見をお聞きしていると、私も実際にあんまり外国籍の方、お住まいになられている方とコミュニケーションをとることって実はないなっていうふうに感じました。

皆様がお仰っているコミュニティを深めていくというところが重要だなと思いながらさっきのお掃除の話もそうですけど、一緒にお掃除をさせてもらったりとか、そんな中でコミュニケーションをとっていったりとかすごく大切です。また、ルールの周知もやっぱり必要なのかなと今日お話を聞いていて感じました。

なので、しっかりと市会議員として大阪市とどういったことが協議できるのか、コミュニティづくりやルールの周知を、しっかりお話しして行って、皆さんと多文化共生に向けてしっかりと取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

本日はお疲れ様でした。ありがとうございます。

【日ノ下議長】

続いて、塩中議員お願いいたします。

【塩中議員】

皆さん、活発な意見をどうもありがとうございました。

ゲストの皆さん、今日はどうも勉強させていただきました。

そして議長をはじめですね、中央区役所のこういう企画、とてもいいなと思って感じていました。

私が感じたのは、最近は行けてないんですけど、海外旅行に行くとやはり不安になるんですけども、日本人で行っているからそんなにあんまり気にならない。ただ、住むとなると全然違うのではないかと。1人でどこかに行って、何かをすることってなかなかできないなど。

そういったときに、やはり海外の方に親切にされたりすると、少しだけなんか嬉しい気持ちになります。逆に怒られたりしたら、この国に来たくないなという感じになったりとかするっていうのがあってですね、我々ができることって、挨拶であったり笑顔からだけからかもしれませんけれども、そういった親しみのある、また来たいな、住んでよかったなって思えるような、中央区、日本にしていけたらなと思います。

本日はどうもありがとうございました。

【日ノ下議長】

ありがとうございました。続いて、鈴木議員よろしく願いいたします。

【鈴木議員】

皆様こんにちは。長時間ありがとうございました。

私が感じたことは、文化、宗教、生活習慣など、本当にお互い全然違う国の人たちが来られていまして、文化の違いをまずやっぱり認め合うっていうことが大切だなと思っております。対等な関係性を築くことが大切でございます。

そのためには何が一番近道かといいますと、もう少ししたら、夏祭りがございますよね。その後には盆踊りもあります。正月には餅つき大会もあります。触れ合い喫茶も毎月それぞれの地域で行われております。そういう地域のつながり、それが一番近道だとDグループで教わりました。

先ほど林委員が、皆さんにお伝えしたと思うのですが、臭いの強い豚まんを電車の中で食べたらだめだというようなルール、どこにも書いてなという話なのですが、やはりルールに見える化というのは大切だと思います。

前回の区政会議でもお話あったと思うのですが、「広報ちゅうおう」のところに先ほど行政の人から聞いたのですが、二次元コード載っていると。ここで、二次元コードを読み取ると他国語でルールないしはホームページで詳しく書いてあるということを教わりました。

前回も、もしかしたら教わっていたのかもしれませんが、私も忘れておりまし

て、是非とも私みたいに忘れがちな人も多いと思いますので、区役所の皆さん、外国の方が窓口にこられたときには、是非ともこの「広報ちゅうおう」のコードを読み取ってくれと外国の方に是非とも言っていただきたいなと思いました。

今日は本当に勉強になりました。

ありがとうございました。

【日ノ下議長】

助言者の皆様、本当にありがとうございました。

それでは最後に、松田区長にコメントをお願いいたします。

【松田区長】

皆さん大変お疲れ様でした。少し時間を超過しておりまして申し訳ございません。

本当にゲストの4組の皆様、ありがとうございました。

皆様のコメントからもございますように、非常に新たな発見、気づきをそれぞれの方が得る時間になったのではないかなと思います。

私ども頑張って、少しでも区政に反映したり、あるいは個々人の考え方の変化とか、一歩行動を変えていく、そういう時間にできたのではないかなと思います。

先ほど日ノ下議長からもございましたけども、中央区の区政会議でゲストをお招きするという取組も、おそらく初めての取組でございまして、どうなるのかなと思って私も今日は大いに期待していたのですけれども、皆様の口の動き方を見ると非常によかったのではないかなというふうに思います。

今後、我々もいろいろ取組をやって我々自身も勉強していかなければならないというのは大いにありますので、今日のご意見をいただいたことは次に活かしていきながら、引き続き、この区政会議自身も良いものにどんどんしていきたいと思っております。

本当に今日はありがとうございました。お疲れ様でした。

【日ノ下議長】

委員の皆様、本日も活発なご意見、議事進行へのご協力をいただきありがとうございました。

これをもちまして、本日の区政会議の議事を終了いたします。

それでは、マイクを事務局にお返しします。

【白川区政企画担当課長】

日ノ下議長ありがとうございました。

これをもちまして、本日の区政会議は閉会とさせていただきます。

次回の第2回中央区区政会議は秋ごろを目途に開催させていただきたいと考えておりま

す。

改めて日程調整させていただきますので、ご多忙とは存じますが、ご出席賜りますようお願いいたします。

お帰りはエレベーターで1階に降りていただき、左側の時間外通用口をご利用ください。

本日は定刻を過ぎてしまいまして申し訳ございませんでした。

お忙しい中、長時間にわたり貴重な意見をいただきありがとうございました。お気を付けてお帰りください。ありがとうございました。